

存在・真理・フィクションの
分析を支える論理構造
解明に向けて

田村 高幸 編

人文公共学府
研究プロジェクト報告書

第329集

2018年

千葉大学大学院
人文公共学府

*Toward to Clarification of Logical
Structure Analyses for Uses of Existence,
Truth and Fiction*

TAMURA Takayuki ed.

RESEARCH PROJECT REPORTS

No. 329

2 0 1 8

Chiba University
Graduate School of Humanities and Study of Public Affairs

千葉大学大学院人文公共学府
研究プロジェクト報告書 第329集
存在・真理・フィクションの分析を支える
論理構造解明に向けて

目 次

はしがき	田村高幸 ……	5
研究プロジェクト研究会報告概括	田村高幸 ……	6
横領された声を代弁することとその声が横領すること —カヴェル哲学における声の理論の限界と挑戦	槇野沙央理 ……	76
研究ノート：『論理哲学論考』において 「対象」と意義の確定性は関係するか？	入江俊夫 ……	88
論理構造からみた存在・真理の分析を支えるフィクションの働き	田村高幸 ……	92

存在・真理・フィクションの分析を支える論理構造解明に向けて
(2016～17年度)

千葉大学大学院人文公共学府
研究プロジェクト報告書 第329集

**Toward to Clarification of Logical Structure Analyses for
Uses of Existence, Truth and Fiction**

Chiba University
Graduate School of Humanities and Study of Public
Affairs
Research Project Reports No. 329

編者 田村 高幸
平成30(2018)年2月28日発行
発行 千葉大学大学院
人文公共学府